

暑い夏・凄惨な夏・恐ろしい夏・そして・・・
～夏の終わりの雑感～

台風の接近に伴って南・西日本の各地に史上稀にみる豪雨が襲いかかり、甚大なる被害をもたらした。そして長い巨大な前線が日本列島を縦断するように腰を下して、山が崩れ、川が溢れ、人里は水に襲われ、やがて飲み込まれてその被害の領域を北日本に広げて行った。我々が居住する関東地方はいつものように山沿いの雷雨はあるものの、巨大な平野の南東の角にある千葉では、雨が少なく畑の作物は苦戦の状態。暑くはあるが命の心配をしないで済むような安心できる天候で申し訳ない気分さえなつたこの夏。今ようやく涼しさと適量の雨を得た千葉の地から、この夏を振り返って見た。

< 1 > 河原のキャンプに鉄砲水

近年毎年繰り返されるこの種の事故。自慢のRVと呼ばれる車で岸に戻ろうとしたが濁流に押し流されて・・・という事件だった。

川の水は上流の山に降った水が集められて流れて来る。遥か何キロも何十キロも上流の山に降った雨が大きな流れになって下って来るのである。想像を絶する稀有な豪雨であったことも事実だろうが、今自分がいる所の空模様だけを注視していてもどうにもならないということだ。

毎年起きては問題視されるにも関わらず後を絶たないのはなぜだろう。ロコミや評判ばかりを気にして行動する人が多い昨今、気にすべき情報を間違えてはいないだろうか。

河原でのレジャーを事業としている人には「お客に対する安全管理上の責任」が存在する。かような危険なところで人を集めて金を取って遊ばせるからには、そのあたりの十分な配慮も必要な気がする。

< 2 > 米・野菜は大丈夫か

九州・四国・中国の各地方で、はたまた東北・北海道で豪雨による大変大きな被害が発生した。テレビのニュースで報道される画面を見ていると、かなりの面積の農地が冠水や洪水の影響を受けている。日本列島の総面積から比べたらかなりの割合になるように見えるが、稲・野菜・果実などの収量に相当の影響をもたらすことだろうと思う。これだけの面積で収穫ができなかったら、無被害地域の収量が突然増加するわけでもないだろうから、食糧は価格高騰どころか著しく不足をきたすことになるのではないかと心配になる。これを切り抜けるために「国民こぞってある種の作物の消費を抑えるようにする」と言うような話は聞いたことがない。備蓄農産物や輸入農作物が活躍するのだろうか、平素過剰に流通しているのでちょうど良くなるのだろうか。

< 3 > 広島の大惨事

広島で発生した「山の斜面崩落の多発」は死者 100 人に迫る大惨事となった。

大惨事が発生した安佐北区、安佐南区あたりは広島市のベッドタウンとして山に向かって宅地開発が進んで行った地域のようなのだ。

六年前広島を旅した時にアストラムラインという新都市交通を使って中心部から郊外の散策に出かけた。アストラムラインとJR可部線に沿って新興住宅地が広がり、標高 400～500m程の山の裾まで新しい家が立ち並んでいるのは見事な景観で、大きな街広島の息吹を感じた。

大惨事が起きた後にテレビのニュースの解説者たちが言う。「花崗岩が風化してできたまき土で崩落しやすく危険な所」中には「こういう土地に家を建てるのは危険だ」とまで。

救出作業や復旧作業が終わった後で事件を総括する意味で発するコメントならばいざ知らず、今家を失って途方に暮れている人達に聞こえるように、学者や評論家たちが「こんな所に・・・」とコメントするのは

如何なものか。たとえ事実であるにせよ、このタイミングでは「首吊りの脚を引っ張る」ような不用意な発言だと思う。このコメントに関する議論を重ねて行くと「都市開発のあやまち」という話までが出てきかねない、微妙な問題に発展する恐れがある。外野席からとやかく言うことは控えたいと思う。

地図を見ると、太田川の河口はいくつもの川と水路の曲線が美しい模様を織りなしている。水との戦いの長い歴史を物語るものなのだろうと思う。

< 4 > 水は上から下へ

いくつかの山で登山客の遭難が報じられた。

北アルプスの 3000m 級の山に刻まれた急峻な溪谷、普段は飛び石伝いに渡渉するようになっている小沢が濁流と化して渡ることができなくなってしまう。それで進行が妨げられて天気待ちの滞留を余儀なくされるだけなら良いが、その流れを渡ろうとして流されてしまったという事故が報道された。

また、登山路が濁流になってしまっていて下山することができなくなって救出依頼、という事件もあった。

山の斜面に降った雨は、斜面の僅かな溝を流路として下って行き小さな沢になる。その小さな沢がいくつも合流をして大きな流れになって行く。美しい溪谷美を司る流れは「何百もの小沢の集まり」であり、「何千もの山肌の襞を流れる水の集まり」である。

登山者が歩くために作られた道は、作った時には小さな窪みであったかもしれないが、多くの登山客に踏みならされた結果、しっかりした溝になってしまう。これは山全体から見れば山肌にできた小さな襞であり、「山肌を流れる雨水の恰好の流路」になってしまう。長い雨や強い雨があると、山の斜面のありとあらゆる溝を辿って水が駆け下りるのだということを忘れてはならない。

山の高さや大きさに関わらず、雨が降ったら先へ進むことが不可能になる危険性があることを念頭に置いて山に入らなければならない。

< 5 > 夏休みの宿題を考える

近所の子どもたちに聞いて見た。「夏休みに毎日日記を書く宿題はないの？」

「あるけど、毎日じゃないよ。絵日記を一枚だけ書くだけ」

40 日余りの夏休みに毎日日記を書き続けることがきっかけとなって、自分の毎日を振りかえることができるなんて言うのはもう過去の話のようだ。「文字を書く」「文章を書く」「記録をつける」などの基礎力を身に付け、わが身を振り返るといって「心の学び」にもつながる。

自由研究という課題があるらしい。ニュースでの報道も交えると色々実態が見えてきた。

「自由研究で何をやるかを具体的に示した本」を売っているところまではまだ許せる範囲だが、「自由研究のための親子セミナー」があったり、「自由研究を応援する親の為の本」があったりする。テレビのニュースは（夏休みの自由研究として）「親子でロボットを作る」というイベントを紹介していた。

暇と金がある親が夢中になっているだけで、一部の子どもは冷めた表情だったのが気になった。

学校からどのような指示が出ているのかわからないが、「誰のための何のための夏休みの自由研究なのか？」という疑問が頭を覆ってきた。

「日頃何気なく見ているものを一か月観察し続けて何かを感じる」とか、「日の出・日の入り・月の出・月の入りなどを記録して何かを知る」などの人間を取り巻く自然環境の中の何かに注意を払って観察し、記録を取り、そこから何かを発見することが大事なのではないか？

科学・化学への興味や物作りへの関心はこんなところから始まるような気がする。物作りと品質で伸びてきた国が今衰退の途をたどりかねない状況にあるのは、こんなところにもあるのかもしれないと感じた。

以上